

役者節用集 序

役者節用集 大板

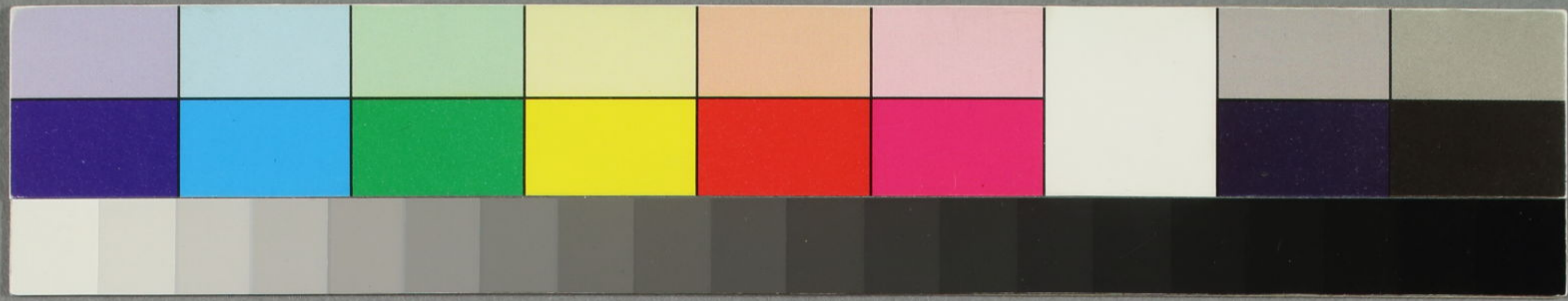
役者節用集 京

大板

恭惟

特別  
子13  
3849  
55





門 子 13  
號 3849  
卷 55

55

後者節用集

燕水堂

鴻山石



大坂之巻目録

書札抄

可晴  
勢りや 巳勢

海濱抄

五登  
末芝



生花秘授

渡多彦 其産  
川浦瑞彩 奥山

彩双珠画

蟹九節 一光  
珠 吉人 蘭耕

男女相性

辻法平 岩子  
梶原源吉 金柳

制札寸法

徳谷次郎 一章  
世乃こころ 墨虹

大坂道頓堀五世お茶屋お茶屋お茶屋  
お茶屋お茶屋お茶屋お茶屋お茶屋  
お茶屋お茶屋お茶屋お茶屋お茶屋  
お茶屋お茶屋お茶屋お茶屋お茶屋

表紙

本吉

浅尾為平 角花

立役之部

極書

嵐三又郎 中花

大書

市川團藏 中花

上吉

柳川新平 角花

上吉

中山来助 角花

上吉

中山来助 角花

上吉 三株大天帝 角尾  
ひらきひらきあつてもつる 虎中命

上吉 三株徳命 中尾  
又くひらきよもあひ 中川之命

上上 嵐松之助 中尾  
是のほろろとあつる 櫻島中

上上 嵐新平 中尾  
結成中つよあひ 豆島之尾

上上 小川大前 角尾  
りるど可成の風 中茶也

上上 中山栄彦 角尾  
此の基成りよき 中茶也

上上 中正相好 角尾  
ゆきよきも信成り 紙や茶

上上 尾上新七 角尾  
正保表帝 中正相好 角尾

上上 尾上新七 角尾  
正保表帝 中正相好 角尾

上上 山村儀吉 角尾  
結成中つよあひ 小岩原中

上上 坂东栄彦 中尾  
結成中つよあひ 中茶也

上上 嶺三八 中尾  
結成中つよあひ 中茶也

上上 中山会命 角尾  
結成中つよあひ 中茶也

上上 守村安太郎 角尾  
結成中つよあひ 中茶也

上上 守村門十郎 中尾  
結成中つよあひ 中茶也

上上 浅尾忠太郎 角尾  
結成中つよあひ 中茶也

上上 尾上勤吉 角尾  
結成中つよあひ 中茶也

上上 尾上勤吉 角尾  
結成中つよあひ 中茶也

上上 尾上勤吉 角尾  
結成中つよあひ 中茶也



上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

角丸の元及みり分

角丸の元及みり分

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

上

山崎美太郎 角丸

角丸の元及みり分

角丸の元及みり分

本種書

可維助

虎

鬼下も妙も一也 金徳其人の  
▲ 程云維有之能

中の種

竹本三節系  
松本七系  
嵐 法系  
高河十九節  
近松法度

角の種

並本三節  
並本七系  
並本十節  
並本十五系  
並本二十系  
並本二十五系  
並本三十系

実魚 ● 本種書

大書 ① 法尾高十節 角種

大書 ② 法尾高十節 角種  
大書 ③ 法尾高十節 角種  
大書 ④ 法尾高十節 角種  
大書 ⑤ 法尾高十節 角種  
大書 ⑥ 法尾高十節 角種  
大書 ⑦ 法尾高十節 角種  
大書 ⑧ 法尾高十節 角種  
大書 ⑨ 法尾高十節 角種  
大書 ⑩ 法尾高十節 角種

大書 ⑪ 法尾高十節 角種  
大書 ⑫ 法尾高十節 角種  
大書 ⑬ 法尾高十節 角種  
大書 ⑭ 法尾高十節 角種  
大書 ⑮ 法尾高十節 角種  
大書 ⑯ 法尾高十節 角種  
大書 ⑰ 法尾高十節 角種  
大書 ⑱ 法尾高十節 角種  
大書 ⑲ 法尾高十節 角種  
大書 ⑳ 法尾高十節 角種

大書 ㉑ 法尾高十節 角種  
大書 ㉒ 法尾高十節 角種  
大書 ㉓ 法尾高十節 角種  
大書 ㉔ 法尾高十節 角種  
大書 ㉕ 法尾高十節 角種  
大書 ㉖ 法尾高十節 角種  
大書 ㉗ 法尾高十節 角種  
大書 ㉘ 法尾高十節 角種  
大書 ㉙ 法尾高十節 角種  
大書 ㉚ 法尾高十節 角種

大書 ㉛ 法尾高十節 角種  
大書 ㉜ 法尾高十節 角種  
大書 ㉝ 法尾高十節 角種  
大書 ㉞ 法尾高十節 角種  
大書 ㉟ 法尾高十節 角種  
大書 ㊱ 法尾高十節 角種  
大書 ㊲ 法尾高十節 角種  
大書 ㊳ 法尾高十節 角種  
大書 ㊴ 法尾高十節 角種  
大書 ㊵ 法尾高十節 角種

大書 ㊶ 法尾高十節 角種  
大書 ㊷ 法尾高十節 角種  
大書 ㊸ 法尾高十節 角種  
大書 ㊹ 法尾高十節 角種  
大書 ㊺ 法尾高十節 角種  
大書 ㊻ 法尾高十節 角種  
大書 ㊼ 法尾高十節 角種  
大書 ㊽ 法尾高十節 角種  
大書 ㊾ 法尾高十節 角種  
大書 ㊿ 法尾高十節 角種

大書 〇 法尾高十節 角種  
大書 ① 法尾高十節 角種  
大書 ② 法尾高十節 角種  
大書 ③ 法尾高十節 角種  
大書 ④ 法尾高十節 角種  
大書 ⑤ 法尾高十節 角種  
大書 ⑥ 法尾高十節 角種  
大書 ⑦ 法尾高十節 角種  
大書 ⑧ 法尾高十節 角種  
大書 ⑨ 法尾高十節 角種

















系おりの七返て中はだ出勅光吉  
源公三浦をたつ中のお徳 [一]谷  
村は後法の子はたかしく [二]高尾谷の  
那谷のちや遊をたのや法をた  
せり [三] [四] [五] [六] [七] [八] [九] [十] [十一] [十二] [十三] [十四] [十五] [十六] [十七] [十八] [十九] [二十] [二十一] [二十二] [二十三] [二十四] [二十五] [二十六] [二十七] [二十八] [二十九] [三十] [三十一] [三十二] [三十三] [三十四] [三十五] [三十六] [三十七] [三十八] [三十九] [四十] [四十一] [四十二] [四十三] [四十四] [四十五] [四十六] [四十七] [四十八] [四十九] [五十] [五十一] [五十二] [五十三] [五十四] [五十五] [五十六] [五十七] [五十八] [五十九] [六十] [六十一] [六十二] [六十三] [六十四] [六十五] [六十六] [六十七] [六十八] [六十九] [七十] [七十一] [七十二] [七十三] [七十四] [七十五] [七十六] [七十七] [七十八] [七十九] [八十] [八十一] [八十二] [八十三] [八十四] [八十五] [八十六] [八十七] [八十八] [八十九] [九十] [九十一] [九十二] [九十三] [九十四] [九十五] [九十六] [九十七] [九十八] [九十九] [百] [百一] [百二] [百三] [百四] [百五] [百六] [百七] [百八] [百九] [百十] [百十一] [百十二] [百十三] [百十四] [百十五] [百十六] [百十七] [百十八] [百十九] [百二十] [百二十一] [百二十二] [百二十三] [百二十四] [百二十五] [百二十六] [百二十七] [百二十八] [百二十九] [百三十] [百三十一] [百三十二] [百三十三] [百三十四] [百三十五] [百三十六] [百三十七] [百三十八] [百三十九] [百四十] [百四十一] [百四十二] [百四十三] [百四十四] [百四十五] [百四十六] [百四十七] [百四十八] [百四十九] [百五十] [百五十一] [百五十二] [百五十三] [百五十四] [百五十五] [百五十六] [百五十七] [百五十八] [百五十九] [百六十] [百六十一] [百六十二] [百六十三] [百六十四] [百六十五] [百六十六] [百六十七] [百六十八] [百六十九] [百七十] [百七十一] [百七十二] [百七十三] [百七十四] [百七十五] [百七十六] [百七十七] [百七十八] [百七十九] [百八十] [百八十一] [百八十二] [百八十三] [百八十四] [百八十五] [百八十六] [百八十七] [百八十八] [百八十九] [百九十] [百九十一] [百九十二] [百九十三] [百九十四] [百九十五] [百九十六] [百九十七] [百九十八] [百九十九] [百]

上上吉 精 中山御衆 中元

[一] [二] [三] [四] [五] [六] [七] [八] [九] [十] [十一] [十二] [十三] [十四] [十五] [十六] [十七] [十八] [十九] [二十] [二十一] [二十二] [二十三] [二十四] [二十五] [二十六] [二十七] [二十八] [二十九] [三十] [三十一] [三十二] [三十三] [三十四] [三十五] [三十六] [三十七] [三十八] [三十九] [四十] [四十一] [四十二] [四十三] [四十四] [四十五] [四十六] [四十七] [四十八] [四十九] [五十] [五十一] [五十二] [五十三] [五十四] [五十五] [五十六] [五十七] [五十八] [五十九] [六十] [六十一] [六十二] [六十三] [六十四] [六十五] [六十六] [六十七] [六十八] [六十九] [七十] [七十一] [七十二] [七十三] [七十四] [七十五] [七十六] [七十七] [七十八] [七十九] [八十] [八十一] [八十二] [八十三] [八十四] [八十五] [八十六] [八十七] [八十八] [八十九] [九十] [九十一] [九十二] [九十三] [九十四] [九十五] [九十六] [九十七] [九十八] [九十九] [百]

き中の御衆の立者光徳念は事ふ  
城 [一] [二] [三] [四] [五] [六] [七] [八] [九] [十] [十一] [十二] [十三] [十四] [十五] [十六] [十七] [十八] [十九] [二十] [二十一] [二十二] [二十三] [二十四] [二十五] [二十六] [二十七] [二十八] [二十九] [三十] [三十一] [三十二] [三十三] [三十四] [三十五] [三十六] [三十七] [三十八] [三十九] [四十] [四十一] [四十二] [四十三] [四十四] [四十五] [四十六] [四十七] [四十八] [四十九] [五十] [五十一] [五十二] [五十三] [五十四] [五十五] [五十六] [五十七] [五十八] [五十九] [六十] [六十一] [六十二] [六十三] [六十四] [六十五] [六十六] [六十七] [六十八] [六十九] [七十] [七十一] [七十二] [七十三] [七十四] [七十五] [七十六] [七十七] [七十八] [七十九] [八十] [八十一] [八十二] [八十三] [八十四] [八十五] [八十六] [八十七] [八十八] [八十九] [九十] [九十一] [九十二] [九十三] [九十四] [九十五] [九十六] [九十七] [九十八] [九十九] [百]







上上



中山の年表 角丸

以五ノ海を考ふるに由らば、其の國は、大正ノ  
年表にて、其の年表を考ふるに、大正ノ  
うて、彈正忠房ノ海軍、其の年表を考ふるに、

左後考曰

至正吉 尾上刺七 角丸

以五ノ海を考ふるに、尾上刺七ノ海軍、其の年表を考ふるに、  
其の年表を考ふるに、尾上刺七ノ海軍、其の年表を考ふるに、

以五ノ海を考ふるに、尾上刺七ノ海軍、其の年表を考ふるに、  
其の年表を考ふるに、尾上刺七ノ海軍、其の年表を考ふるに、

以五ノ海を考ふるに、尾上刺七ノ海軍、其の年表を考ふるに、  
其の年表を考ふるに、尾上刺七ノ海軍、其の年表を考ふるに、

以五ノ海を考ふるに、尾上刺七ノ海軍、其の年表を考ふるに、  
其の年表を考ふるに、尾上刺七ノ海軍、其の年表を考ふるに、

以五ノ海を考ふるに、尾上刺七ノ海軍、其の年表を考ふるに、  
其の年表を考ふるに、尾上刺七ノ海軍、其の年表を考ふるに、

以五ノ海を考ふるに、尾上刺七ノ海軍、其の年表を考ふるに、  
其の年表を考ふるに、尾上刺七ノ海軍、其の年表を考ふるに、

以五ノ海を考ふるに、尾上刺七ノ海軍、其の年表を考ふるに、  
其の年表を考ふるに、尾上刺七ノ海軍、其の年表を考ふるに、

以五ノ海を考ふるに、尾上刺七ノ海軍、其の年表を考ふるに、  
其の年表を考ふるに、尾上刺七ノ海軍、其の年表を考ふるに、

以五ノ海を考ふるに、尾上刺七ノ海軍、其の年表を考ふるに、  
其の年表を考ふるに、尾上刺七ノ海軍、其の年表を考ふるに、

以五ノ海を考ふるに、尾上刺七ノ海軍、其の年表を考ふるに、  
其の年表を考ふるに、尾上刺七ノ海軍、其の年表を考ふるに、

以五ノ海を考ふるに、尾上刺七ノ海軍、其の年表を考ふるに、  
其の年表を考ふるに、尾上刺七ノ海軍、其の年表を考ふるに、

以五ノ海を考ふるに、尾上刺七ノ海軍、其の年表を考ふるに、  
其の年表を考ふるに、尾上刺七ノ海軍、其の年表を考ふるに、



一體  
錦  
山  
密  
三  
書  
後  
汝  
之  
巻



全  
部  
忠  
臣  
講  
釈  
三  
三  
秋  
後  
九  
坊  
三  
三  
秋









かきつし師業に教養を授けしむる亦まよりの  
そのそあふりゆかたをてく<sup>四</sup>二度十々  
女房おとあふ本殿跡ゆり内の際よまが  
をたてうらうらとあはれあふり<sup>三</sup>  
のあはれあふりゆかたをてく<sup>四</sup>二度十々  
よまるとあふりゆかたをてく<sup>五</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>六</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>七</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>八</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>九</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>十</sup>

至聖書 <sup>四</sup> 至聖書松 才元

あまうらあふりゆかたをてく<sup>一</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>二</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>三</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>四</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>五</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>六</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>七</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>八</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>九</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>十</sup>

あまうらあふりゆかたをてく<sup>一</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>二</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>三</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>四</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>五</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>六</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>七</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>八</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>九</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>十</sup>

上三言 <sup>藏</sup> 山下八百卷 角丸

あまうらあふりゆかたをてく<sup>一</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>二</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>三</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>四</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>五</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>六</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>七</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>八</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>九</sup>  
あまうらあふりゆかたをてく<sup>十</sup>






飛のたれきりぞかよひ三柄ありと云ひ


上吉  仲村の一角花

 花巻の東の風守りてを御座候は

と云ひ  務務者深衣候やうに候ふの


合ふに  御座候は候ふに候ふ

と云ひ  御座候は候ふに候ふ

と云ひ  御座候は候ふに候ふ

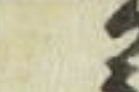
と云ひ  御座候は候ふに候ふ

と云ひ  御座候は候ふに候ふ

と云ひ  御座候は候ふに候ふ

と云ひ  御座候は候ふに候ふ

と云ひ  御座候は候ふに候ふ

と云ひ  御座候は候ふに候ふ


と云ひ  御座候は候ふに候ふ

と云ひ  御座候は候ふに候ふ

と云ひ  御座候は候ふに候ふ

と云ひ  御座候は候ふに候ふ

と云ひ  御座候は候ふに候ふ

と云ひ  御座候は候ふに候ふ

上上吉  三吉あり候 此元


 御座候は候ふに候ふ

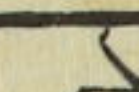
 御座候は候ふに候ふ

 御座候は候ふに候ふ

 御座候は候ふに候ふ

 御座候は候ふに候ふ

 御座候は候ふに候ふ


 御座候は候ふに候ふ

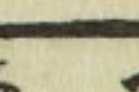
 御座候は候ふに候ふ


 御座候は候ふに候ふ

 御座候は候ふに候ふ

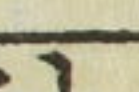
 御座候は候ふに候ふ


 御座候は候ふに候ふ

 御座候は候ふに候ふ

 御座候は候ふに候ふ

 御座候は候ふに候ふ

 御座候は候ふに候ふ

 御座候は候ふに候ふ

 御座候は候ふに候ふ

 御座候は候ふに候ふ

 御座候は候ふに候ふ

 御座候は候ふに候ふ

 御座候は候ふに候ふ

 御座候は候ふに候ふ


此の原のりらあやうきおめりて國を後  
三つにわたりておめりて出立候はらうの原か  
まの原とていふ事なりとぞ

上上吉  市三津市 市北

因時を記す事なれども此の原は此の  
くまの原を記す事なれども此の原は此の  
まの原を記す事なれども此の原は此の  
らに記す事なれども此の原は此の  
まの原を記す事なれども此の原は此の  
らに記す事なれども此の原は此の  
まの原を記す事なれども此の原は此の  
らに記す事なれども此の原は此の

上上  法尾仙之市 市北

因時を記す事なれども此の原は此の  
くまの原を記す事なれども此の原は此の  
まの原を記す事なれども此の原は此の  
らに記す事なれども此の原は此の  
まの原を記す事なれども此の原は此の  
らに記す事なれども此の原は此の  
まの原を記す事なれども此の原は此の  
らに記す事なれども此の原は此の

中一  法尾仙之市 市北  
か波の原を記す事なれども此の原は此の  
まの原を記す事なれども此の原は此の  
らに記す事なれども此の原は此の  
まの原を記す事なれども此の原は此の  
らに記す事なれども此の原は此の  
まの原を記す事なれども此の原は此の  
らに記す事なれども此の原は此の

上上  法尾仙之市 市北

因時を記す事なれども此の原は此の  
くまの原を記す事なれども此の原は此の  
まの原を記す事なれども此の原は此の  
らに記す事なれども此の原は此の  
まの原を記す事なれども此の原は此の  
らに記す事なれども此の原は此の  
まの原を記す事なれども此の原は此の  
らに記す事なれども此の原は此の  
まの原を記す事なれども此の原は此の  
らに記す事なれども此の原は此の  
まの原を記す事なれども此の原は此の  
らに記す事なれども此の原は此の  
まの原を記す事なれども此の原は此の  
らに記す事なれども此の原は此の  
まの原を記す事なれども此の原は此の  
らに記す事なれども此の原は此の

上上  市三津市 市北  
上上  法尾仙之市 市北

上上



崩源之少

角丸

此は本丸の正印也其の形は山に似たり其の意は崩源の少なる事也其の形は角丸に似たり其の意は崩源の少なる事也



崩源之少

角丸



崩源之少

角丸



崩源之少

角丸



崩源之少

角丸

此は本丸の正印也其の形は山に似たり其の意は崩源の少なる事也其の形は角丸に似たり其の意は崩源の少なる事也



崩源之少

角丸

此は本丸の正印也其の形は山に似たり其の意は崩源の少なる事也其の形は角丸に似たり其の意は崩源の少なる事也

此は本丸の正印也其の形は山に似たり其の意は崩源の少なる事也其の形は角丸に似たり其の意は崩源の少なる事也

▲ 表丸之款

上上



崩源之少

角丸

上上



崩源之少

角丸

定丸







角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部

角丸草部



卷一	卷二	卷三	卷四	卷五	卷六	卷七	卷八	卷九	卷十
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

後者節用集 卷八

京之卷目錄

茶豆作  
 松永大孫  
 本長衣  
 市紅

裁物仕候  
 おまゝ  
 おまゝ  
 共帳  
 園紋

角力圖式

たがもて 巴江

公算掛別

長谷川 秋元  
川 彦彦 彦九

武蔵名目

小栗判官 小左  
横山彦彦 秋風

徳邊具圖

新野彦彦 淡江  
彦彦 彦彦

東国名目  
一世代のあり後世に伝へる

大書

可 雜助

上書

市川團次

上書

中山素助

上書

團 三十郎

上書

嵐 彦彦

上書

市川 彦彦

上書

嵐 松之助

②

とらけもあやど物なほさう

上上

中村十翁

① 智恵と云うてありとある

上上

中山宗義

② 利子宗義のりつと云はれ

上

市川虎彦

③ 市川虎彦のりつと云はれ

上書

嵐三五郎

④ 嵐三五郎のりつと云はれ

上書

行圓宗義

⑤ 行圓宗義のりつと云はれ

上書

嵐三八

⑥ 嵐三八のりつと云はれ

上上

中村四郎八

⑦ 中村四郎八のりつと云はれ

上上

中村宗義

⑧ 中村宗義のりつと云はれ

上上

市川三平

上上

嵐珠六郎

⑨ 嵐珠六郎のりつと云はれ

上上

市川四郎次

⑩ 市川四郎次のりつと云はれ

上上

市川三郎

⑪ 市川三郎のりつと云はれ

上上

音羽宗義

⑫ 音羽宗義のりつと云はれ

上書

芳沢つらば

⑬ 芳沢つらばのりつと云はれ

上上書

中村のりつ

⑭ 中村のりつのりつと云はれ

上上書

沢村宗義

⑮ 沢村宗義のりつと云はれ

上上書

沢村宗義

⑯ 沢村宗義のりつと云はれ

上上 嵐三右衛門

上上 漢元帝 漢元帝

上上 仲山漢元帝 仲山漢元帝

上上 嵐新助 嵐新助

上 山下五郎左衛門 山下五郎左衛門

上 及のり合 及のり合

上 嵐新助 嵐新助

上 漢元帝 漢元帝

上 漢元帝 漢元帝

上 嵐新助 嵐新助

上 嵐新助 嵐新助

上 嵐新助 嵐新助

上 嵐新助 嵐新助

上 嵐新助 嵐新助

上 嵐新助 嵐新助

上 嵐新助 嵐新助

上 嵐新助 嵐新助

上 嵐新助 嵐新助

上 嵐新助 嵐新助

上 嵐新助 嵐新助

● 帝の御言目録

二月十日ヨリ

本朝古書

古書  
四冊

大切化装古書

西條

四月十日ヨリ

時政御書目録

古書  
二冊

頼政御書目録

三冊

大切風流古書

西條

六月十日ヨリ

古平忠朝御書

古書  
二冊

古平忠朝御書

古書  
二冊

六月十日ヨリ

古平忠朝御書

十冊

七月十日ヨリ

綾井室御書

六冊

九月十日ヨリ

けのせし書

七冊

女侍の本

法村園  
二冊

奇

古書目録

古書  
二冊

如上



園遊楽苑七回りてしにせりてりてりてりてり

三三三 **三** 大分公家公家公家公家公家公家公家

の大分公家公家公家公家公家公家公家公家

公家公家公家公家公家公家公家公家公家

**二** 公家公家公家公家公家公家公家公家公家

公家公家公家公家公家公家公家公家公家

公家公家公家公家公家公家公家公家公家

公家公家公家公家公家公家公家公家公家

公家公家公家公家公家公家公家公家公家

公家公家公家公家公家公家公家公家公家

公家公家公家公家公家公家公家公家公家

公家公家公家公家公家公家公家公家公家

公家公家公家公家公家公家公家公家公家

公家公家公家公家公家公家公家公家公家

公家公家公家公家公家公家公家公家公家

公家公家公家公家公家公家公家公家公家

公家公家公家公家公家公家公家公家公家

公家公家公家公家公家公家公家公家公家

公家公家公家公家公家公家公家公家公家

公家公家公家公家公家公家公家公家公家

公家公家公家公家公家公家公家公家公家

公家公家公家公家公家公家公家公家公家

公家公家公家公家公家公家公家公家公家

公家公家公家公家公家公家公家公家公家

公家公家公家公家公家公家公家公家公家

公家公家公家公家公家公家公家公家公家

公家公家公家公家公家公家公家公家公家

公家公家公家公家公家公家公家公家公家



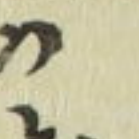



公家公家公家公家公家公家公家公家公家










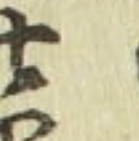

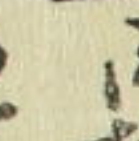

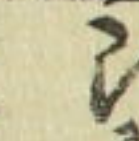


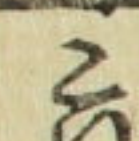
平山と安福の想と柳野のて宝所海よ  
河原との定金柳天の波をうる花六  
波屋屋の波のて二波の波をうる花  
也の波をうる花の波をうる花の  
川いひのてゆくまきい

上上吉  関三十節

一  尚待てなすはなやゆと三由也と  
二  空の波をうる花の波をうる花の  
三  かつたをうる花の波をうる花の  
四  のちまをうる花の波をうる花の  
五  びごりまに古屋をうる花の波をうる花の  
六  二波をうる花の波をうる花の

カの中ははたつり山園晴く三層のなを波う  
二波をうる花の波をうる花の  
三  有るをうる花の波をうる花の

上上  関三十節

一  乃をうる花の波をうる花の  
二  上をうる花の波をうる花の  
三  二波をうる花の波をうる花の  
四  男をうる花の波をうる花の  
五  古屋をうる花の波をうる花の  
六  田をうる花の波をうる花の  
七  也をうる花の波をうる花の  
八  りをうる花の波をうる花の  
九  年をうる花の波をうる花の  
十  綱をうる花の波をうる花の  
十一  二波をうる花の波をうる花の  
十二  二波をうる花の波をうる花の

くわが...  
たか...  
ゆ...  
く...  
く...  
く...

上 回 市川...  
上 回 市川...

...  
...  
...  
...  
...  
...

上 上 嵐松...  
上 上 嵐松...

...  
...  
...  
...  
...

上 上 中村十...  
上 上 中村十...

...  
...  
...  
...  
...

上 上 中山...  
上 上 中山...

...  
...  
...  
...  
...

上 上 嵐三...  
上 上 嵐三...

...  
...  
...  
...  
...

侍らばとらるるもよき事上条 二波  
まゝに流るるものよしと強めたるれ原 び  
がたはあつたのさきより二波まむさう  
中条 二波の政事よの出来事たせむさ  
ぞ原 二波の政事たせむさう  
文書の書留めりもまゝの應書の神憑  
もまゝの書りませむ二 原の政事  
らうまゝの書りませむ原 二波の政事  
ともまゝの書りませむ原 二波の政事  
もまゝの政事たせむ原 二波の政事  
はどの政事たせむ原 二波の政事  
▲ 実ある政事たせむ  
上吉 ① 二波の政事  
川 二波の政事たせむ原 二波の政事  
たせむ原 二波の政事

兼らばとらるるもよき事上条 二波  
まゝに流るるものよしと強めたるれ原 び  
がたはあつたのさきより二波まむさう  
中条 二波の政事よの出来事たせむさ  
ぞ原 二波の政事たせむさう  
文書の書留めりもまゝの應書の神憑  
もまゝの書りませむ二 原の政事  
らうまゝの書りませむ原 二波の政事  
ともまゝの書りませむ原 二波の政事  
もまゝの政事たせむ原 二波の政事  
はどの政事たせむ原 二波の政事  
▲ 実ある政事たせむ  
上吉 ① 二波の政事  
川 二波の政事たせむ原 二波の政事  
たせむ原 二波の政事

十奉 治承元年花御の乱 教養のありしをよ  
るがごとくつらふがはらひの事 國の由は  
よきなりしをよむるがはらひの事 國の由は  
隆き申ははらひの事 業田の由は  
川に流す事 業田の由は  
その御座りしをよむるがはらひの事 國の由は  
もたふははらひの事 業田の由は  
中をよむる御座りしをよむるがはらひの事 國の由は  
ありしをよむるがはらひの事 業田の由は  
その御座りし

上上 申 仲村 忠房

隆き申ははらひの事 業田の由は  
川に流す事 業田の由は  
その御座りしをよむるがはらひの事 國の由は  
もたふははらひの事 業田の由は  
中をよむる御座りしをよむるがはらひの事 國の由は  
ありしをよむるがはらひの事 業田の由は  
その御座りし

よむるがはらひの事 業田の由は  
川に流す事 業田の由は  
その御座りしをよむるがはらひの事 國の由は  
もたふははらひの事 業田の由は  
中をよむる御座りしをよむるがはらひの事 國の由は  
ありしをよむるがはらひの事 業田の由は  
その御座りし

上上 申 仲村 忠房

隆き申ははらひの事 業田の由は  
川に流す事 業田の由は  
その御座りしをよむるがはらひの事 國の由は  
もたふははらひの事 業田の由は  
中をよむる御座りしをよむるがはらひの事 國の由は  
ありしをよむるがはらひの事 業田の由は  
その御座りし

上上 申 市川 三平

上上 申 嵐 殊六郎

隆き申ははらひの事 業田の由は  
川に流す事 業田の由は  
その御座りしをよむるがはらひの事 國の由は  
もたふははらひの事 業田の由は  
中をよむる御座りしをよむるがはらひの事 國の由は  
ありしをよむるがはらひの事 業田の由は  
その御座りし

上上 申 芳 根 伝 三郎

其男をせしむるに其母も其女に其父  
 其父を其母に其母を其父に其女を  
 其父に其母を其父に其母を其父に  
 其母を其父に其父を其母に其父を  
 其母に其母を其父に其父を其母に

▲養女歌三歌

上上吉 **精** 芳次郎は

上上 古體名をいふと其れより後...  
上上 元々の其れは...  
上上 其れは...  
上上 其れは...  
上上 其れは...  
上上 其れは...

上上吉  仲村のしん

上上 其れは...  
上上 其れは...  
上上 其れは...

上上 其れは...  
上上 其れは...  
上上 其れは...  
上上 其れは...  
上上 其れは...

上上吉 **○** 沢村のしん

上上 其れは...  
上上 其れは...  
上上 其れは...  
上上 其れは...  
上上 其れは...



鳥居

此は元來...  
<sup>一</sup>...  
<sup>二</sup>...  
<sup>三</sup>...  
<sup>四</sup>...  
<sup>五</sup>...  
<sup>六</sup>...  
<sup>七</sup>...  
<sup>八</sup>...  
<sup>九</sup>...  
<sup>十</sup>...  
<sup>十一</sup>...  
<sup>十二</sup>...  
<sup>十三</sup>...  
<sup>十四</sup>...  
<sup>十五</sup>...  
<sup>十六</sup>...  
<sup>十七</sup>...  
<sup>十八</sup>...  
<sup>十九</sup>...  
<sup>二十</sup>...

此は元來...  
<sup>一</sup>...  
<sup>二</sup>...  
<sup>三</sup>...  
<sup>四</sup>...  
<sup>五</sup>...  
<sup>六</sup>...  
<sup>七</sup>...  
<sup>八</sup>...  
<sup>九</sup>...  
<sup>十</sup>...  
<sup>十一</sup>...  
<sup>十二</sup>...  
<sup>十三</sup>...  
<sup>十四</sup>...  
<sup>十五</sup>...  
<sup>十六</sup>...  
<sup>十七</sup>...  
<sup>十八</sup>...  
<sup>十九</sup>...  
<sup>二十</sup>...

の露もさきまきとてうらみのけのめり  
おやこ柳との露を地をさきまき  
り公歴を授けたりひきとて勝彦のよ  
めとて公歴と

子秋多事家二小

作者 八文舎 自笑

寛政三年  
正月吉日

八文字屋  
八文字板

○雑物目録 大坂をいじりし 和泉屋卯吉清

歳時古実 ひらき 全一冊

正月より十二月までの身中をゆりし 社  
狂言撰 社 全一冊

貞柳一代の抄 社 貞柳 全一冊  
梅若九代記 ひらき 全五冊

愛護若九代記 ひらき 全五冊  
一生の同とくはくし見松若の母  
天物とらなりをむきし

後徳九代記 ひらき 全五冊  
一生の母 けい母娘多いごんの

てあふんく九天王奇西門は母ひきまくの  
けいのゆきり



みぞぐくし 大坂新町細見 全一冊

くろまの出来ぬふとせぬなゆちま天ト人  
ひたつゆち女希げいこけふをまらうて級  
同舞中のさわりあげ唇のじしをまらうの  
後書何さひ付者まらうくまらうを出と

婦人の新屋 ひらうま小中 全一冊

さんせんさんごふんごん乃やうやくまらうめい  
其外ありさ中いひの出来ぬまらうじの中あり

花壇を宝記 ひらうま小中 全一冊

諸本を花とのとれらるる人の教を入とぞそ  
中う金更なるれ約中うまらうくく出と

兵法奥儀抄 ひらうま後巻入 全二冊

ふ中勘女秘とる書にく秘術秘術をまらうぞ  
のじ強盗の難し出あひさる付力を出と  
そ難とのるく乃妙斗とくまらうく出と

学術指南大成 ひらうま 全一冊

和漢書人の口傳せん志色の秘術秘術あり  
をあらふ人乃多しめとるをまらうす

万世秘り枕 ひらうま巻入 三冊

魚枕かんざうさごものつらとれ抱くまらう  
そくごのつらうつらつらひ中う日用家がい  
き富あるまらうとぞいざ大人小児婦人急  
痛のまらうめい秘術秘術をまらうく出と

世宗傳授儀 秘り枕後編 三冊

秘りまくらにひらうま味香ひらうまのよき  
とらつた諸とくひのさう中うとぞとら  
よと抱れく知らよあるまらうく出と

秘術さんげ袋 ひらうま巻入 二冊

さしきふぶとるものひらうま目付く  
あん夜とるの出来ぬまらうげと紙とくそ  
このけうにあらうをまらうく出と

唐土秘事の海 ひらうま巻入 二冊

さんげふく秘に出る唐土人乃好志色の  
おと秘人の志色のを唐中ひらうまらうと  
ひらうまらうく出と

改心服忌令 のりまゝ 入小本 一冊  
任勢服佛社乃ぞく神社のいしけの物の  
るをあるの二十二社の伝せうをいごと

曆多宝記 のりまゝ 小本 一冊

身中れがあら日月のちくひん八世はら令  
非ハナリ并くくく雷荒神あはるを  
天性出用其外あまのまけをくくく記

伝本程大令 のりまゝ 入 六冊

貞柳太極のおとけをくくくくくく  
こと世の名ありの伝を出と

伝本智恵袋 のりまゝ 入 二冊

まひくまのめまのゆとだん男女のお  
とけ海空のおまろき伝を出くくく  
ことまろくんのまをくくく

算法伝板車 のりまゝ 入 一冊

ハさん魁一より開平開まどかまをだん  
くう記よりまろはりりあくを出ん

大坂書林 公使橋山信 和泉屋卯吉書

後者節用集 のりまゝ 巻末空

### 江戸之巻目録

ひろくさんかど のりまゝ 巻末空  
百官多金 のりまゝ 三朝

いそりのま のりまゝ 十河  
日會乃程 のりまゝ 巨樸  
小川

神燈抄之

おらよ 杜若  
半そふ 瑞江

篇冠子蓋

少燈丸 納子  
瓦紋丸 鈴車

妙法

深井袋 杖院  
雷巻 鈴水

茶湯抄

千の利休 三殊  
姫ささ 腰巻

江戸之芝居物惣役者目録

さうい所 中村勘三郎 座

ふま石所 市村羽左衛門 座

こひま所 河東勝徳之助 座

○凡そいろは外又あるものごと

▲惣巻首

無類 ● 家宝を多くし各口宛り成る

義経書 市川團十郎 かしら

実り ちんちん 市川團十郎 の字

▲立役之部

器書 沢村宗幸 市村た

知子のむきみみすやうはすの字

上書 大谷廣隆 中村丸

江戸風の巻物ハ知経の五の字

上書 市川門之助 市村丸

か子といふあまのりんを依のどの字

上書 市川八百蔵 中村丸

仕内ハりんさり上の方のかの字

上上書 坂東三津五郎 かきつる

候くまひつるいひまの三の字

上上書 坂東彦三郎 市村九

ひとがうかくづさぬさの字

上上書 浅尾右三郎 中村九

ふくはにたのぬまむとの字

上上書 市川男女彦 市村九

ほのまそせおふさくはの字

上上書 中村勝五郎 中村九

中山小十郎

上上書 尾上右三郎 中村九

市川雷也

上上書 坂東長彦 市村九

坂村後松

上上書 坂田左千郎 市村九

坂東三木彦

上上書 市川味五郎 市村九

山科四郎千郎

上上書 かきつる

かきつる後の取方の かの字

上上書 坂田五郎 市村九

中一上市川彦彦市

上上書 中村芳彦 市一上

市一上辰彦市

上上書 市上辰彦 市一上

市一上辰彦市

上上書 市上辰彦 市一上

市一上辰彦市

上上書 市上辰彦 市一上

市一上辰彦市

上上書 市上辰彦 市一上

市一上辰彦市

上上書 市上辰彦 市一上

市一上辰彦市

上上書 市上辰彦 市一上

市一上辰彦市

上上書 市上辰彦 市一上

市一上辰彦市

上上書 尾上松助 中村九

世の字の定はらひの字

▲実悪之部

上上書 坂田五郎 市村九

上上書 市川彦彦 市村九

上上書 市川彦彦 市村九

上上書 市川彦彦 市村九

上上書 市川彦彦 市村九

上上書 市川彦彦 市村九

上上書 市川彦彦 市村九

上上書 市川彦彦 市村九

上上書 市川彦彦 市村九

上上書 市川彦彦 市村九

五位 桐谷権十郎 中村元

▲歌役之部

上上 中村元 中村元

上上 市川宗三郎 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

五位

▲歌役之部

上上 中村元 中村元

上上 市川宗三郎 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

上上 中村元 中村元

▲着女飛し部

極上吉

岩井五郎市

中村丸

むらさきとむらさきのむらさきのむらさき

上上吉

小幡川市也

中村丸

つらとつらよのつらよのつらよのつらよ

月山ト万景

中村丸

上上吉 流の川市松

中村丸

善房方ハわのやいてるあわあ

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸

中村丸



河津橋座

笠橋専助  
徳儀  
玉巻久八  
渡  
本村定八  
藤  
英  
氏

以上

市川

松平左衛門  
市川高島  
市川高島  
坂本又右衛門

●一寸少あり

寛政二戌年

洋華院秀伯善量信士 中村仲藏

頭壽院道遠日函

九月十四日

俗名 大谷廣重

○十三門部分註

一乾坤

天地乾坤の乃以五太人  
の考るん世に又の由ある

一官位

大至極上上吉有り  
白上までの位

一人倫

士農工商の中外一実の  
不名何某とある

一支躰

月はわらみらりの舞  
まてて全身のまわり

一氣形

向より来るまの負格  
ヨヒヨクと傳ふの形

一器財

乃具方の後をうて  
高合の平治の舞の形



一言語

今夜の夢がうぬ  
大出で之扱ひ

一時候

妻の身我友の世話  
秋の禊初めをの付代

一神社

之社の神室を湯が  
牙池の粒るホナリ

一名字

幸十くまやあい  
まをゑんやあい

一衣食

べんとうとりそめて  
葱衣巻とま

一草木

本葉をたふに松栂  
の幹より角る

一数量

今も切られ賣切  
ヤルハ

立役之神

歌

養老書回方川国守

かき

①六萬の勢を乾坤の其るはあま  
のまゝんや維新の流も流く縁空際の家  
性ゆふたの取つて絶る葉縁とあま  
目及等なる系を後て面神懐懐と  
はと傳はる人の方とてまをの道と後  
者取のね具の戯れを愛のこの中具具出  
切くまゝは若者定ま京後とれり  
以川東橋を興ひてあまは公家府の  
保元をりたる者例はあまを在撫  
切不極はるなるまをの後とやうび  
まあがねとあまを理とあまの  
あまを秋はる前村を在撫とあ  
まを初なるは具のあまを



我亦も一統の道にまよはずすすの程  
 ままの心にお他のもは強ひたれど  
 かねての志を程程に概天にまよしては  
 数大なるうたまうと云々の言をせり  
 くらゐに道にまよはれどいづか  
 心もすまて花かかたての葉もは  
 兼天を吹まてくは骨のけり  
 海濱のひかり連中の外は  
 分り難き事く國のり  
 心もすまて花かかたての葉もは  
 兼天を吹まてくは骨のけり  
 海濱のひかり連中の外は  
 分り難き事く國のり  
 心もすまて花かかたての葉もは  
 兼天を吹まてくは骨のけり  
 海濱のひかり連中の外は  
 分り難き事く國のり

此の太神神代歌集は昔尾く興ひり  
 律に舞の功先か  
 以員負能後を  
 せんくく  
 器上書

① 沢村家十布 市村丸

② 即ち左の歌は和実宗と名義の連合  
 多後の百部の心  
 全後福のうと  
 高きく  
 子孫金出の世  
 たり中  
 心大





かひきり口の松平のぬき<sup>四</sup>次は全  
月海より火傳びたのきと上降子のみ  
あきまのくはれ<sup>五</sup>のあきまのき  
かくまのき<sup>六</sup>あきまのき<sup>七</sup>あきまのき<sup>八</sup>  
あきまのき<sup>九</sup>あきまのき<sup>十</sup>あきまのき<sup>十一</sup>  
あきまのき<sup>十二</sup>あきまのき<sup>十三</sup>あきまのき<sup>十四</sup>  
あきまのき<sup>十五</sup>あきまのき<sup>十六</sup>あきまのき<sup>十七</sup>  
あきまのき<sup>十八</sup>あきまのき<sup>十九</sup>あきまのき<sup>二十</sup>  
あきまのき<sup>二十一</sup>あきまのき<sup>二十二</sup>あきまのき<sup>二十三</sup>  
あきまのき<sup>二十四</sup>あきまのき<sup>二十五</sup>あきまのき<sup>二十六</sup>  
あきまのき<sup>二十七</sup>あきまのき<sup>二十八</sup>あきまのき<sup>二十九</sup>  
あきまのき<sup>三十</sup>あきまのき<sup>三十一</sup>あきまのき<sup>三十二</sup>  
あきまのき<sup>三十三</sup>あきまのき<sup>三十四</sup>あきまのき<sup>三十五</sup>  
あきまのき<sup>三十六</sup>あきまのき<sup>三十七</sup>あきまのき<sup>三十八</sup>  
あきまのき<sup>三十九</sup>あきまのき<sup>四十</sup>あきまのき<sup>四十一</sup>  
あきまのき<sup>四十二</sup>あきまのき<sup>四十三</sup>あきまのき<sup>四十四</sup>  
あきまのき<sup>四十五</sup>あきまのき<sup>四十六</sup>あきまのき<sup>四十七</sup>  
あきまのき<sup>四十八</sup>あきまのき<sup>四十九</sup>あきまのき<sup>五十</sup>

あきまのき<sup>五十一</sup>あきまのき<sup>五十二</sup>あきまのき<sup>五十三</sup>  
あきまのき<sup>五十四</sup>あきまのき<sup>五十五</sup>あきまのき<sup>五十六</sup>  
あきまのき<sup>五十七</sup>あきまのき<sup>五十八</sup>あきまのき<sup>五十九</sup>  
あきまのき<sup>六十</sup>あきまのき<sup>六十一</sup>あきまのき<sup>六十二</sup>  
あきまのき<sup>六十三</sup>あきまのき<sup>六十四</sup>あきまのき<sup>六十五</sup>  
あきまのき<sup>六十六</sup>あきまのき<sup>六十七</sup>あきまのき<sup>六十八</sup>  
あきまのき<sup>六十九</sup>あきまのき<sup>七十</sup>あきまのき<sup>七十一</sup>  
あきまのき<sup>七十二</sup>あきまのき<sup>七十三</sup>あきまのき<sup>七十四</sup>  
あきまのき<sup>七十五</sup>あきまのき<sup>七十六</sup>あきまのき<sup>七十七</sup>  
あきまのき<sup>七十八</sup>あきまのき<sup>七十九</sup>あきまのき<sup>八十</sup>  
あきまのき<sup>八十一</sup>あきまのき<sup>八十二</sup>あきまのき<sup>八十三</sup>  
あきまのき<sup>八十四</sup>あきまのき<sup>八十五</sup>あきまのき<sup>八十六</sup>  
あきまのき<sup>八十七</sup>あきまのき<sup>八十八</sup>あきまのき<sup>八十九</sup>  
あきまのき<sup>九十</sup>あきまのき<sup>九十一</sup>あきまのき<sup>九十二</sup>  
あきまのき<sup>九十三</sup>あきまのき<sup>九十四</sup>あきまのき<sup>九十五</sup>  
あきまのき<sup>九十六</sup>あきまのき<sup>九十七</sup>あきまのき<sup>九十八</sup>  
あきまのき<sup>九十九</sup>あきまのき<sup>百</sup>

上上吉 回 市川八百三 中村九

①上方より名どくま車東二条道の  
あきまのき<sup>一</sup>あきまのき<sup>二</sup>あきまのき<sup>三</sup>  
あきまのき<sup>四</sup>あきまのき<sup>五</sup>あきまのき<sup>六</sup>  
あきまのき<sup>七</sup>あきまのき<sup>八</sup>あきまのき<sup>九</sup>  
あきまのき<sup>十</sup>あきまのき<sup>十一</sup>あきまのき<sup>十二</sup>  
あきまのき<sup>十三</sup>あきまのき<sup>十四</sup>あきまのき<sup>十五</sup>  
あきまのき<sup>十六</sup>あきまのき<sup>十七</sup>あきまのき<sup>十八</sup>  
あきまのき<sup>十九</sup>あきまのき<sup>二十</sup>あきまのき<sup>二十一</sup>  
あきまのき<sup>二十二</sup>あきまのき<sup>二十三</sup>あきまのき<sup>二十四</sup>  
あきまのき<sup>二十五</sup>あきまのき<sup>二十六</sup>あきまのき<sup>二十七</sup>  
あきまのき<sup>二十八</sup>あきまのき<sup>二十九</sup>あきまのき<sup>三十</sup>  
あきまのき<sup>三十一</sup>あきまのき<sup>三十二</sup>あきまのき<sup>三十三</sup>  
あきまのき<sup>三十四</sup>あきまのき<sup>三十五</sup>あきまのき<sup>三十六</sup>  
あきまのき<sup>三十七</sup>あきまのき<sup>三十八</sup>あきまのき<sup>三十九</sup>  
あきまのき<sup>四十</sup>あきまのき<sup>四十一</sup>あきまのき<sup>四十二</sup>  
あきまのき<sup>四十三</sup>あきまのき<sup>四十四</sup>あきまのき<sup>四十五</sup>  
あきまのき<sup>四十六</sup>あきまのき<sup>四十七</sup>あきまのき<sup>四十八</sup>  
あきまのき<sup>四十九</sup>あきまのき<sup>五十</sup>

中山密約  
中村座  
辰巳月朔日



山登  
尾上松分  
高村庄  
辰巳月朔日ヨリ



大茂観進帳  
辰巳月朔日  
阿泉座  
辰巳月朔日



坂東  
三浦  
市川  
十市







上上回 市川男甘茶 市村

田舎のまのの親のあまをいひて板屋の  
後をいひて村のまのの鬼次郎と云  
箱茶をいひてのまのまの二役をいひて  
中村のまのの板屋をいひて村のまのの  
鬼次郎のまのの板屋をいひてのまのの  
まののまののまののまののまののまのの  
まののまののまののまののまののまのの

上上 市村 中村

上上 市村 中村

上上 市村 中村

上上 市村 中村

上上 市村 中村

上上 市村 中村

上上 市村 中村

上上 市村 中村

上上 市村 中村

上上 市村 中村

上上 市村 中村

上上 市村 中村

上上 市村 中村

上上 市村 中村

上上 市村 中村

上上 市村 中村

上上 市村 中村

上上 市村 中村

上上 市村 中村

上上 市村 中村

上上 市村 中村





白雲の下の谷の深き處に色々の岩あり  
たふして石神の玉の首の神のつらなる後  
山ははけをせし神史引を在る海神のく  
たらしむるをたふすたる名ふと云ふ事

上寺 ④ 山嵐音 八 中村丸

⑤ 才たふ家の白の冬体は水はたの出初  
物を極多目核するの後事ありといふく  
無事を言上候ふこと云長慶之やと實  
在可ふかされたる體なる懐中の室を奈  
事日知る事なりとあり也二番目合儀あり  
怪候事ありありとあり也云々事あり  
事名は石を元と候ふ事ありく云々事あり  
とあり也と出に候事あり候事ありとあり  
候事ありとありとありとありとあり

上寺 ⑤ 沢村院乃年 中村丸

⑥ 遠き布座の南の白の雲の鬼  
谷定得は遠くを然り候事ありとあり  
ありとありとありとありとありとあり  
とあり候事ありとありとありとあり  
かたの之候てお玉の事ありとありとあり  
侍もたふとありとありとありとあり

上寺 ⑥ 大い大鬼法 中村丸

⑦ 伊佐信長と高田とを相く秋の定たる冬  
を病の真如の世なるの事ありとありとあり  
山の言候事ありとありとありとありとあり  
次は天院とありとありとありとありとあり  
とありとありとありとありとありとあり  
とありとありとありとありとありとあり  
とありとありとありとありとありとあり  
とありとありとありとありとありとあり



上上 回 市川貞幸 帝 加 聖

① なるをあるまじき事ありて其の教を授けり  
の事と云ふ事ありて其の教を授けり  
の事と云ふ事ありて其の教を授けり

上上 ② 中務秋良高 中務

③ なるをあるまじき事ありて其の教を授けり  
の事と云ふ事ありて其の教を授けり  
の事と云ふ事ありて其の教を授けり

上上 ④ 谷村虎高 中務

⑤ なるをあるまじき事ありて其の教を授けり  
の事と云ふ事ありて其の教を授けり  
の事と云ふ事ありて其の教を授けり

取寄連判状と云ふ事ありて其の教を授けり  
の事と云ふ事ありて其の教を授けり  
の事と云ふ事ありて其の教を授けり

上上 ⑥ 沢村松高 中務

仲や再改名と云ふ事ありて其の教を授けり  
の事と云ふ事ありて其の教を授けり  
の事と云ふ事ありて其の教を授けり

上上 ⑦ 中村松高 中務

中村松高 中務

中村松高 中務

中村松高 中務

中村松高 中務

中村松高 中務

上上 回 市川貞幸 帝 加 聖

上 回 市川和家流 多景

隨也きも常の侍多きと云ふ事  
筆も本程よく改定て取らむと云はれ  
市川流の流本太公は本流の流本  
流本及流本と云ふ事今人の入流  
本程よく改定て取らむと云はれ  
及本流の流本太公は本流の流本  
流本及流本と云ふ事今人の入流  
本程よく改定て取らむと云はれ

上 回 市川和家流 多景

隨也きも常の侍多きと云ふ事  
筆も本程よく改定て取らむと云はれ  
市川流の流本太公は本流の流本  
流本及流本と云ふ事今人の入流  
本程よく改定て取らむと云はれ  
及本流の流本太公は本流の流本  
流本及流本と云ふ事今人の入流  
本程よく改定て取らむと云はれ

と云ふ事今人の入流本程よく改定て取らむと云はれ  
及本流の流本太公は本流の流本流本及流本と云ふ事  
今人の入流本程よく改定て取らむと云はれ  
及本流の流本太公は本流の流本流本及流本と云ふ事  
今人の入流本程よく改定て取らむと云はれ  
及本流の流本太公は本流の流本流本及流本と云ふ事  
今人の入流本程よく改定て取らむと云はれ

上 回 市川和家流 多景

隨也きも常の侍多きと云ふ事  
筆も本程よく改定て取らむと云はれ  
市川流の流本太公は本流の流本  
流本及流本と云ふ事今人の入流  
本程よく改定て取らむと云はれ  
及本流の流本太公は本流の流本  
流本及流本と云ふ事今人の入流  
本程よく改定て取らむと云はれ









古伝  
上上



仲村泰吉 中村元

古傳



の 沢村五物 三徳

は後継りの山崎一対の月夜をうきと  
おろそきなき天竺の海を舟にのりて  
とれは山崎の月をうきとせりて  
月をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて

上上



山崎泰吉 市村元

の 山崎泰吉の形は山崎泰吉の  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて

上



市川定之 中村元



山崎泰吉 市村元



山崎泰吉 市村元



山崎泰吉 市村元

舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて

上上吉



市川定之 市村元

舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて  
舟をうきとせりて舟をうきとせりて

みだしの産物より、又、清酒がらみ、  
入るる事も、其の事を知りて、  
とて、  
とて、

上 ④ 大気清酒之神 中焚

⑤ 此酒の味、其の味、  
二瓶も、  
刀、

真・惣巻油

極善 ⑥ 瀬川菊之丞 丹波

⑦ 菊のさくら、  
か、  
善、  
と、  
は、  
所、

香深きもの、  
は、  
今、  
月、  
と、  
の、  
付、  
多、  
く、  
清、  
之、  
は、  
上、  
は、  
は、

は、  
今、  
月、  
と、  
の、  
付、  
多、  
く、  
清、  
之、  
は、  
上、  
は、  
は、





しに能く其の心は、  
は、  
車、  
自、  
と、  
と、  
ら、  
あ、

● あり、

衣、  
さ、  
後、  
入、  
さ、

お、  
及、  
し、

寛政三年

正月吉日

八文字

八左衛門板



